

## 第 41 回講演会開催報告

橋本運営委員長あいさつ

私どもも頻繁に中国に行きますが、本当の中国の姿というのはなかなか外から見ているだけでは分かりません。それを毎年講師の先生方に非常に深いところまで教えていただけるということで、私もこの講演会は毎年拝聴するのを大変楽しみにしており、ためになると思っています。

1. 日時：11月26日（月）16：00～17：30（講演会終了後、懇親会）
2. 場所：大和ハウス工業株式会社 東京本社ビル 2F コンベンションホール
3. 講師：瀬野清水氏（元重慶総領事）
4. テーマ：「中国の過去・現在と行方」
5. 参加人数：43社 131名

### 瀬野清水氏講演

今日は、皆さんお忙しい中お集まりいただき本当にありがとうございます。中国のことをお話しする機会をいただけただけでも大変感謝しています。

【中国とはどんな国】

梁啓超という日本の明治維新に倣って運動を興して失敗した人が、中国の国名をどうするかということで、「中華」「支那」「中国」の中から最終的に「中国」を選んだという記録が残っています。今では中華人民共和国の略称として中国が使われています。人口は13億9千万人で、今の状況でいけば2030年には人口でインドが中国を抜くだろうと言われています。国土はロシア、カナダ、アメリカに次ぐ世界第4位の広さです。そして地球の7パーセントの耕地面積で、世界の人口の5人に1人を養っています。

【中国の悩み】

共産党や習近平体制の中身は意外に脆弱で、「五独」といわれるチベット、新疆ウイグル、内モンゴル、台湾、香港の5つの地域に、ごく少数ながら独立を主張する人たちがいる中で、14億人を束ねなければならない。そういった中、お金持ちはとてつもないお金持ちとなり、格差の拡大によって不満も拡大していつている。そこに世界に類のない「中国の特色ある社会主義」という国づくりをしています。何が中国の特色なのかというのはまだ答えがなく、試行錯誤をしているという状況ではないかと思われる。そういった格差と多様な考え方をしている人たちの中で何が起きているかという、官僚と共産党幹部の腐敗です。中国の一番の弱みは権力の正当性で、権力を奪取するのは暴力革命、つまり武器を持って戦うしか政権は勝ち取れないのだという思想のもとにできあがった国であり、国民の選挙で選ばれたわけではありません。誰が国家主席になるかは党中央の政治局常務委員会のようなところで決まっています。共産党がなぜ政権をとっているかという正統性の理由が二つあって、日本軍を追い出して自分達の統一国家を作ったのがひとつ。もうひとつは、民衆の幸せ、民衆が望んでいる生活を実現させるために、経済を豊かにするというものです。今、中国がやらなければならないのは、経済の発展、民衆が望んでいる社会をつくるということで、それが行き詰ったときに国が乱れかねないという、危うさを抱えています。易姓革命というのは、姓を易え、天命を革めるという意味です。歴代皇帝の政治がうまくいかず、民衆の不満が高まってきた時、それは皇帝に徳がないということの証明であり、その皇帝を挿げ替えて他の政権に交替させるというのが易姓革命の考え方です。

そういった中に3つの罣が潜んでいます。ひとつは中所得国の罣です。所得でいえば今中国は平均すれば年間1人あたり8千ドルくらいですが、1万ドルにいくまでの間に、さらに高度な社会構造をつくっておかないと、長期の低迷が避けられないというのが、この世界銀行の警告です。



次に中国が社会主義の国として計画経済をやっていた時代から自由主義の市場経済に移行する過程で形成された非常に大きな既得権益の層で、計画経済で利益を得た人たちはそれを死守するために、企業の民営化や、市場経済に任せるということをせず、あらゆる手段を講じて抵抗しようとします。その抵抗勢力をどのように乗り越えていくのかというのが体制移行の罨といわれています。

3番目はツキジデスの罨といわれ、戦争というのは新興勢力と覇権大国との間で起こるものだというものです。中国という新興大国と、大国として長い間世界の警察のような役割をしてきたアメリカとの間で米中戦争という名の、武器を使わない戦争が長期化するのではなかろうかと懸念されています。

#### 【日中関係と同文同種の罨】

最近では誰が中国人で誰が日本人かは見分けがつかなくなってきました。そのような時代に、様々な関係が密接になればなるほど、ちょっとした違いが大きな問題になりかねないというのが、罨と言われる所以です。同じように漢字を書き、しかも顔が似ているがゆえに相手も自分と同じ人たちだと思ってしまうがちです。ちょっとした違いが大きな摩擦のもとになったり、小さな差異へのこだわりが誤解のもとになったりします。接触が増えれば増えるほど、身近に中国の人がいればいるほど、こうした小さな違いが問題になることがあります。

#### 【中国の行方】

私の予想ですが、習近平はおそらく本来であれば2022年までの任期を、さらに2期10年くらいは続けて、2032年くらいまでの合計20年くらいまでは続けるのではないかと思います。その間に何をしようとしているかといえば、1つは公約として掲げている、2010年の時の1人当たりの平均収入を2020年までに2倍にし、貧困世帯をゼロにすることです。2021年が中国共産党のちょうど結成100周年にあたるので、それまでにまずまずの豊かな暮らしができる社会を実現させようとしているからです。その後は2020年から2035年までの15年間で強くて豊かな国をつくり、2035年から2050年ごろまでに豊かで強だけでなく、民主的で文明的で和諧の社会主義、現代化国家をつくらうとしています。

国家目標というのは「中国の特色ある大国外交」や「中華民族の偉大なる復興」です。この「中国の夢」を世界の夢にしようというのが一帯一路の試みです。習近平は、一帯一路は宝船と友好、ラクダと善意という、外交的・平和的手法で共に豊かになっていくという道を探っていく試みであって、武力や戦艦を使って、無理やりに勢力・影響範囲を拡げようとするものではないと何度も明言しています。問題はそれが信頼されるかどうかで、「言葉は美しいけれどもこれから何をするか見ていきましょう」というのがおそらく今の状況ではないかと思いますが、私自身は最後は必ずうまくいくのではないかと考えています。一国だけが自分達の価値観を押し付けるのではなく、共に相談しながら、共に建設して、その成果を共に分かち合うという基本理念は共同富裕・共同発展の道に通じるものです。

質疑応答においては、(一財)日本建築センターの橋本理事長から、一帯一路は借金漬けにして何か権利を取ろうとしているのではないかという警戒感に対して、質問がありました。

瀬野氏からは、実際そのような問題が起こっていると報じられていますし、それに似た側面があったのかも知れませんが、自分の返済能力以上のお金を借りたら、返せなくなるのは当たり前で、しかも一帯一路というのは一緒に考えましようと言っていて、一方的に押し付けているわけではないので、色々なことがあったとしても、最終的には上手くいくのではないかと考えているとのお答えがありました。

講演会の内容については、会報誌「日中建協NEWS」No.237号(2019年1・2月号)に詳しく記載しています。

講演会終了後、講師の瀬野様にもご参加いただき、会場を大和ハウス工業(株)東京本社ビル23階レストランに移動して懇親会を開催し、115名の方に講演会に引き続きご参加いただきました。瀬野様には、出席者の多くの皆様と交流していただきました。